

コリント人への手紙第二 第2章 15節

「私たちは、救われる人々の中でも、滅びる人々の中でも、神の前にかぐわしいキリストのかおりなのです。」

キリストのかおりに触れる意義深さを通りの自然から再び教えられる。この季節にしては珍しい温暖な陽射しの下、駅周辺の芝生の刈り取りが行われている。駅近くの芝生の横を多くの人たちが足早に行き交っている。芝の上では、芝刈り機がうなり声をあげて緑の芝を刈り取っている。切り取られた芝生は緑のじゅうたんとなる。

その横を通ると、緑のかおりがはっきりと届く。芝生の何とも言えない爽快さを与える。緑色した芝生からのかおりである。いのちのかおりと言える。ここで生きている芝生の言葉なきかおりである。このかおりは芝刈り機で刈り取られたときに空に放たれる。いわば傷ついて放つかおりである。痛んで放つかおりである。それまで育まれ、緑のさなか刈り取られ、そこでかおりを放つ。ありがたくこのいのちのかおりを吸い込みたい。

キリストのかおりとされた私たちはどうだろうか。人々が行き交うなか、キリストのいのちで生かされている私たちのかおりはどのようにかおっているだろうか。誰か立ち止まり、吸い、神を感謝するかおりだろうか。